



【千葉県木更津市×男女共同参画】独自のパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度で誰もが共生できる社会を目指す

『木更津市』について松木さんに取材！男女共同参画の取り組みについて、気になるポイントをお聞きました。

2023年11月21日更新

目次

- [1.ジェンダー平等の観点から『木更津市』に注目！](#)
- [2.「オーガニックなまちづくり」で持続可能な社会を目指す](#)
- [3.「共生社会」の実現を目指し始めた理由とは](#)
- [4.啓蒙のため、情報紙の発行や講演会の開催を定期的に行う](#)
- [5.「地域共生推進課」で男女共同参画と人権に関する施策を総合的に推進！](#)
- [6.独自の「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」を開始](#)
- [7.「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」に対する市民の反応は？](#)
- [8.自分の「当たり前」を疑い、日々業務に取り組む](#)
- [9.まとめ](#)

ジェンダー平等の観点から『木更津市』に注目！



JobQ では SDGs 目標 5「ジェンダー平等を実現しよう」の視点から、男女共同参画に取り組む自治体を取材していきます。

今回ご紹介するのは、『木更津市』。

独自の「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」を設立するなど、男女共同参画に関する取り組みで注目を集めています。

それでは『木更津市』の男女共同参画の取り組みについて、市民部地域共生推進課 松木 貴史さんに詳しくインタビューをしていきます！

「オーガニックなまちづくり」で持続可能な社会を目指す



編集部

『木更津市』が目指しているまちづくりについて教えてください。

松木さん

『木更津市』が目指しているのは、人と自然が調和した持続可能な社会「オーガニックなまちづくり」の実現です。

もともと「オーガニック」という言葉には、「有機的な」という意味が第一義としてあります。

細胞が集まり組織や器官を形成し、相互に連携することでひとつの生命体として動いていくさまを表しています。

これを社会になぞらえ、個人や団体を細胞や組織に見立てて、生き物のようにスムーズに機能するまちを目指して取り組んでいます。

「オーガニックなまちづくり」の取り組みの柱は、「自立・循環・共生」の3つです。

そのうち共生社会の推進に関する部分を具体化・明確化した「彩り豊かな個性が集う共生社会づくり条例」を制定し、令和5年4月に施行しました。

この条例に基づき、男女共同参画、外国人、障がい者、性の多様性、人権などの各施策を共生社会実現に不可欠な要素として位置づけています。

「共生社会」の実現を目指し始めた理由とは



編集部

なぜ共生社会へ取り組み始めたのか、背景やきっかけを教えてください。

松木さん

従来の男女共同参画施策では対応できない課題が増えてきていたからです。より広い範囲をカバーする共生社会の実現を目指すべきゴールとしました。

この考え方をベースとして「第5次木更津市男女共同参画計画」を令和4年3月に策定しました。本計画では男女共同参画の枠を拡張し、性的マイノリティにも配慮した内容を含んでいます。

キャッチフレーズは「性別等にかかわらず 誰もが自分らしく安心して暮らせるまち きさらづ」です。多様性の尊重にフォーカスしながら、男女共同参画施策を推進する計画を打ち出しました。これが共生社会づくりに取り組むきっかけになったと考えています。

啓蒙のため、情報紙の発行や講演会の開催を定期的に行う



編集部

これまでに行ってきた具体的な取り組み内容について教えてください。

松木さん

一つは男女共同参画情報紙「デュエット」の発行です。

男女共同参画に関する情報提供と意識啓発を目的として、男女共同参画週間がある6月に毎年発行しています。

令和4年には30号を記念し、新たなタイトルヘッダーやロゴが紙面に採用されるなど大幅にリニューアルしました。

ピンクと青のグラデーションになっているヘッダーは、性の多様性になぞらえたデザインです。

「男性」と「女性」をイメージさせる各色が混ざり合っていく様子を表しました。

制作にあたっては、シンプルで読みやすい文章とすることを心がけています。

もう一つは「男女共同参画フォーラム」の開催です。

男女共同参画フォーラムでは主に講演会を行ってきていて、コロナ禍をきっかけにオンライン開催へ切り替えました。

また令和2年度からは、市公式 You Tube「きさらずプロモチャンネル」のコンテンツの一つとして公開しています。

「地域共生推進課」で男女共同参画と人権に関する施策を総合的に推進！

TOPIC
05

男女共同参画担当課が変わりました

令和5年4月1日から、男女共同参画を担当する課が企画部オーガニックシティ推進課から市民部地域共生推進課に変更となりました。これに伴い、場所も駅前庁舎から朝日庁舎へ移動しました。
新しい担当課の情報は次のとおりです。

20 地域共生推進課

Borderless Community Promotion Division

20番の青い看板が目印です

部課名：市民部 地域共生推進課
住所：〒292-8501 木更津市朝日3-10-19
電話：0438-38-3089 FAX：0438-25-3566
メール：kyosei@city.kisarazu.lg.jp



1002388

編集部

共生社会に向けて取り組む上で、工夫していることを教えてください。

松木さん

私たち地域共生推進課で、共生社会実現につながる施策を総合的・一体的に進めていることです。

もともと男女共同参画施策をオーガニックシティ推進課が、人権施策は市民活動支援課が所管していました。しかし令和5年4月の組織改正により、二つの課の一部が合体する形で地域共生推進課が誕生。

男女共同参画と人権が、一つの課で取り扱えるようになりました。

両者には共通する部分も多いことから、一体となったことで新たなアイデアが生まれると考えています。

そのほかにも「木更津市の共生社会づくり」のイメージ定着に向け、さまざまな工夫をしています。
たとえばチラシやポスターのデザインを行う際には、カラーや雰囲気統一感を持たせているのも工夫の一つです。

男女共同参画に関する内容は一つのページにまとめ、ポータル化しています。
検索性を高める工夫もしているので、Web サイト「オーガニックシティきさらづ公式 WEB サイト」をご覧ください。

独自の「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」を開始



編集部

貴市では「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」を設けていますね。
取り組み内容について具体的に教えてくださいませんか？

松木さん

令和5年4月から「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」を開始しました。
制度の特色としては次の5点です。

子や親等を家族として扱えるファミリーシップ制度も追加

事実婚の方も対象

一方が市民であれば宣誓可能

通称名も使用可能

カードは6色から選択可能

特に宣誓証明カードの色を選べるシステムは、制度の準備中に、当事者の方からいただいた意見を取り入れたもので大変好評です。

「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」に対する市民の反応は？



編集部

「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」を開始し、どのような反響がありましたか？

松木さん

多くのメディアに取り上げていただいています。

当市の制度は、全国的に見ても対象者の範囲が広く、カードの色も選べるなど、独自性を強く打ち出したものになっているからです。

本制度がスタートして半年が経過した時点で、5組の方に宣誓いただいています。

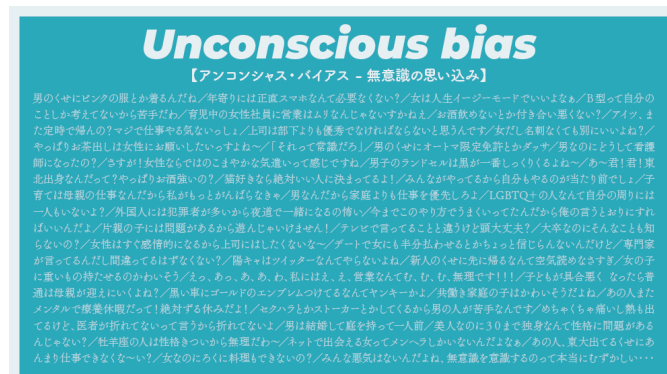
どのように本制度を知ったのか宣誓した方に尋ねたところ、「SNSを通して知った」と答えた方が多かったです。

さまざまな媒体をフル活用し、周知する必要性を改めて感じています。

利用者からの反応もよく、市民や他の自治体からの問い合わせも頻繁にきています。

また、性的マイノリティを対象とした Web サイトのニュース記事でも「木更津市が素敵なのは、宣誓証明カードがラベンダー、パールオレンジなどレインボーカラーをイメージした6色の中から選べるところです。制度について説明したガイドブックのデザインもおしゃれです。」と言及していただきました。

自分の「当たり前」を疑い、日々業務に取り組む



編集部

男女共に働きやすいキャリアの実現に興味を持つ読者に向けて、メッセージをお願いします。

松木さん

「男女共同参画」という言葉が生まれてから、20年以上が経過しました。
近年では性をグラデーションとして捉えることも多くなってきています。
LGBTQ+といった性的マイノリティの方や性分化疾患(※)を持つ方など、「男女」の枠組みで十分に捉えられない人も少なくありません。

一方で私たちがよく使う言葉の中には、アンコンシャス・バイアスの原因となっているものがあります。
これまで当たり前とされてきた言葉や概念が、もしかしたら誰かを深く傷つけていることだってあり得ます。
このようなことに気づくのは簡単ではありませんが、たまには自分の中の当たり前を疑ってみると何か発見があるかもしれません。

自身の考えがバイアスに囚われている、と頭の片隅に置いておくだけで避けられることはたくさんあります。
そのような意識を常に持ちながら日々の業務に向き合うことで、みんなが気持ちよく働ける職場環境づくりにつながるのではないのでしょうか。

当市では、性別や年齢、国籍などさまざまな属性に関わりなく誰もが自分らしく安心して暮らせるまちづくりを進めています。

(※) 男性とも女性とも言い切れないあいまいな状態で生まれてくる先天的疾患のこと

まとめ

取材を終えて、「男女」という枠に囚われずさまざまな人が共生できる社会に取り組んでいる自治体だと思いました。

取り組みの詳細が気になる方は、『木更津市』をぜひチェックしてみてください。

木更津市

▶ [HPはこちらから！](#)

木更津市

▶ [男女共同参画の取り組みはこちら！](#)

<https://job-q.me/articles/15452>